校 内 研 修 計 画

甲州市立東雲小学校

１．学校課題

　　　本校の児童は明るく素直で、学習や行事等様々な学校生活の中で、前向きに取り組むことができる。友達とも上手に関わることができ、思いやりの気持ちをもって活動している。仲良く協力して活動することで、係や委員会の仕事に対しての積極性が芽生えてきた。縦割り活動をはじめとする児童会活動では、日常的に上級生が下級生の面倒を見る姿が見られ、思いやりの心が徐々に下の学年に引き継がれている。休み時間は元気になわとびやボール遊びを楽しみ、学年関係なく子供たち同士が自然と教え合いながら、「できるようになりたい。」という意欲的な姿が、生き生きと輝いている。

学習面では、課題に対して前向きに取り組み、よく考えて学ぶ様子が見られる。各教科の授業では、漢字や計算等の基礎学力の定着を図る取り組みを行い、どの子もひたむきに一生懸命取り組んでいる。しかし一方で、教師の支援が必要な児童や、自己肯定感の低い児童もいる。やりたい気持ちはあっても、思うように学習を進めることが難しい児童もいる。そのような児童の実態を踏まえ、すべての児童の可能性を引き出すためには、「個別最適な学び」と「協働的な学び」が実現できるような学級集団をつくっていく必要がある。今年度は「個別最適な学び」と「協働的な学び」の日常化を意識しつつ、WEBQU検査の結果や分析等を活用しながら、一人ひとりの可能性を引き出す学級集団づくりを下に、自ら進んで学習する児童の育成を目指していきたい。

２．研究主題

　　　 「自ら課題を見つけ、進んで学習する児童の育成」

　　　　　～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の日常化を目指して～

３．主題設定の理由

　　　本校の学校教育目標は【基本目標】「自ら学び　心豊かに生きる子どもの育成」である。

具体目標として、「自分で考え、進んで学習する子供」「素直で思いやりがあり、協力できる子供」「明るく、たくましい子供」の3つが掲げられている。具体策一つとして「個別最適な学び」「協働的な学び」を意識した授業づくりとしている。

また、今日的課題より、社会の変化は、複雑で予測困難となってきており、しかもそうした変化が、全ての子供たちの生き方に影響するものとなっている。このような時代だからこそ、子供たちは、変化を前向きに受け止め、私たちの社会や生活を、人間ならではの感性を働かせてより豊かなものにしたり、現在では思いもつかない新しい未来の姿を構想し実現したりしていくことが必要とされる。先行き不明の「予測困難な時代」の中で、社会を生き抜いていくため、生涯にわたって学び続けるため、「自ら課題を見つけ、進んで学習する児童の育成」を目指していきたい。

この研究主題をさらに深めていくためのキーワードとして、第１０期中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して〜全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現〜」で示された「個別最適な学びと、協働的な学びの一体的な充実」に着目した。初年度はまず各クラスの実態をみながら、「個別最適な学びと、協働的な学びの一体的な充実」を意識して取り組んでいきたい。

４．研究の具体的内容と方法

（１）「個別最適な学び」「協働的な学び」を意識した授業づくり

・講師を招いての学習会（理論研究）

・学びのスケールの活用

・研究授業、一人一実践（研究授業）

　・教材教具、ICTの効果的な活用方法について

　　（２）親和的な学級集団づくりの充実

・学級経営の充実

・各教科、行事、特別活動、総合的な学習の時間との関り

　　（３）「夢をかなえる学びのプロジェクト」との関り

　　　　　・WEBQU検査と結果分析

　　　　　・「GIGAワークブックやまなし」の活用

　　　　　・家庭学習

　　（４）家庭、地域、中学校ブロックとの連携、交流

　　　　・授業参観（年１回道徳の授業実施）

　　　　・学校、学年だよりの活用

　　　　・中学校ブロックでの連携、交流

５．年 間 校 内 研 修 計 画

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 実施月日 | | 研　修　内　容　（領域） | | 担当・学年 | T･C要請 |
| ４ | ４ | 第　１回 | 研究の方向性について | 研究主任 |  |
| １７ | 第　２回 | 校内研修計画について　授業者の決定 | 研究主任 |  |
| ５ | ２１ | 第　３回 | ブロック研① | 研究主任 |  |
| ２８ | 第　４回 | 学習会 | 研究主任 | 〇 |
| ６ | ４ | 第　５回 | WEBQU結果分析　アセスメント・対応策シートの作成 | 各学年 |  |
|  | １８ | 第　６回 | ブロック研② | 各学年 |  |
| ７ | ９ | 第　７回 | 研究授業の方向性 | 研究主任 |  |
| ８ | １８ | 第　８回 | 教育課程還流報告　一人一実践について | 部会長 |  |
| ９ | ３ | 第　９回 | 授業案検討 | 部会長 |  |
| ２４ | 第１０回 | 研究授業 | 部会長 | 〇 |
| １０ | １ | 第１１回 | 一人一実践に向けた　ブロック研③ | 各学年 |  |
|  | ２９ | 第１２回 | 一人一実践に向けた　ブロック研④ | 各学年 |  |
| １１ | ５ | 第１３回 | WEBQU結果分析　アセスメント・対応策シートの作成 | 各学年 |  |
| １２ | １７ | 第１４回 | 研究部会の成果と課題について | 研究主任 |  |
| １ | ２１ | 第１５回 | 研究の成果と課題について　来年度の方向性について | 研究主任 |  |
| ２ | ５ | 第１６回 | 研究紀要原稿作成（個人研究） | 各学年 |  |
| ２ | ２６ | 第１７回 | 研究紀要原稿作成（個人研究） | 各学年 |  |
| ３ | ４ | 第１８回 | 研究紀要の作成 | 研究主任 |  |

（研究主任　水上　千春）